「もったいない」
誰もが普段何気なく口にしたり、耳にしている言葉ではないでしょうか。
今、この「もったいない」という言葉が、注目を浴びています。
県内でも、ケニア副環境大臣ワンガリ・マータイさんの提唱をきっかけに
「もったいない運動」が盛り上がって来ました。
今回は、「もったいない」をキーワードに、
豊かな地球環境を未来に引き継いでいける社会について、
皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

特集 1

「もったいない」の心で未来を！

循環型社会を目指して――

未来のために

地球の悲鳴が聞こえますか？ 深刻な地球環境問題

私たちは、森を切り開き、街や道路を作り、また石油・石炭などからエネルギーを得たり、さまざまな生活用品を製造するなど、経済優先の考えで豊かさを追い求めてきました。

しかし、地球は今、こうした人類の活動に耐えきれずに悲鳴を上げています。地球温暖化やオゾン層の破壊、酸性雨の発生、野生生物種や熱帯林の減少、砂漠化の進行など、深刻な環境問題を招いています。このままでは人類の生存さえも危うくなると予測されています。

「もったいない」は循環型社会のキーワード

地球環境を健全な姿で未来に引き継ぐためには、省エネルギーやごみの減量化、リサイクルの推進など、自然環境に負担をかけないで自然と共生しながら持続可能な社会とすること、つまり循環型社会を形成することが求められています。

この取り組みをわかりやすく表現するキーワードが「もったいない」です。この言葉は、「物を無駄にしない」とともに、「ありがたい」「おそれ多い」という意味を持ち、自然や人を大切にすることを教えています。「もったいない」の心で、私たち一人一人が率先して生活や行動を見直し、環境にやさしい生活に変えていくことが必要です。

「もったいない」運動とは

環境分野で初めてノーベル平和賞を受賞したケニアの副環境大臣ワンガリ・マータイさんが提唱しているのが「もったいない運動」です。今年2月に来日した際、「もったいない」という言葉が、自身が取り組んでいる「3R（ごみの減量＝リデュース、再使用＝リユース、再生利用＝リサイクル）」をわかりやすく表現していることを知り、大変な感銘を受けました。以来、マータイさんは国連の会議などにおいて、限られた資源を有効に利用しようと世界に向けて「もったいない運動」を呼び掛けています。